



琉球国王の普天間参詣

琉球王国時代には、首里から普天間まで松並木の街道（並松街道）がとおっていました。現在の普天間飛行場の滑走路のやや東、駐機場があるあたりです。

この街道をとおつて、毎年9月（旧暦）には、国王の普天間参詣という行事がありました。

御輿に乗った国王を中心に、王子など、数十人のお供の人びとをつれた行列がしらずと、並松街道を進みました。

普天間参詣は、国王にとつても、王国にとつても、大切な恒例の行事でした。

実は、この行事の準備や手順を詳細に記したマニュアルが、首里王府の役人たちによって作成され、1855年の業務日記に記録として残されています。



宜野湾並松と一の鳥居 (大正13年頃)



普天満宮と並松 (昭和13年頃)



普天間参詣行列図(模型) 市立博物館蔵

このマニュアルによると、首里城を出

発した国王一行は、宜野湾間切番所（後の村役場）でお茶とたばこの接待を受けたのち、普天間宮の鳥居の前で、神宮寺住職や宜野湾間切の総地頭、普天間村の地頭や地頭代といった、地域を代表する人びとに迎えられています。

王子など身分の高い人びとも鳥居の前で下馬（馬から降りる）することが決められていました。

涼傘と呼ばれる大きな日傘や、国王に風を送るための巨大なうちわも準備されていました。旧暦の9月は、当時もまだ、暑い時期だったことがわかります。

普天間の洞くつの前では、神楽の演奏もあり、大夫・祝部・内侍・宮童などお宮に仕える人たちが、国王からお酒をいただいています。

琉球国王の普天間参詣は、沿道の地域の人びとにとつても、大変、印象に残るイベントだったにちがいません。

【問合せ】市立博物館 ☎ 870-9317



其の60

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く

沖縄県では沖縄空手（古武術を含む）の伝統文化としての価値を次世代に伝えていくとともに「空手発祥の地・沖縄」を国内外に広く発信するため、県内の幅広い分野の関係機関・団体と連携し、沖縄空手のユネスコ無形文化遺産登録を目指しています。

空手は披露宴やトウシビー（生年祝）等の祝いの席、綱引きやハーリー等の祭礼行事、地域の敬老会や学校の運動会等で、型の演舞が行われるなど県民生活に広く浸透しています。また、琉球舞踊とは類似性があり、エイサーには空手の所作が組み込まれています（沖縄県作成資料より）。

宜野湾市では「野嵩マールアシビ」

「新城マールアシビ」

「大謝名の獅子舞」

「じのーん舞方」

で空手の道具である「棒」を使っ

た「棒術」や「棒踊り」

、空手の型をかぎや

で風の早弾きに

合わせて踊り嘉



野嵩のポウマチ (1972)

に合わせた踊り嘉



大謝名の獅子舞 (2018)



新城【伏山敵討】 (1986)



じのーん舞方 (2022) (宜野湾)

例（かりー）をつける「舞方（メーカー）」が伝えられてきました。「野嵩マールアシビ」「新城マールアシビ」では組踊の中に棒術や殺陣が取り入れられています。野嵩ではポウマチも演じられています。大謝名の獅子舞では昭和56年からプログラムの一つとして棒術と舞方が行われるようになりました。宜野湾区の「舞方」は独特の節回しと型があるので、郷友会では宜野湾舞方の歌・三線・地謡と立方演舞の保持者と後継者を認定して「舞方」の保存に努めています。

今年（旧盆行事のエイサーや旧暦八月十五夜（9月29日）の行事が各地で開催される予定です。「大謝名の獅子舞」は十五夜と「秋祭り」で演舞されるそうです。今年（旧盆行事）は新しい視点で見学されてみてはいかがでしょうか。

【問合せ】文化課 ☎ 893-4430